

# 伊勢湾環境保全型ノリ養殖推進事業

## ノリ養殖経過

坂口研一・中西尚文

### 目的

三重県の黒ノリ養殖業の安定化を図るために、生産者に対して養殖環境についての情報提供や病害等の対策を指導するなど、きめ細かな対応が要求されている。そこでノリ漁場栄養塩調査、およびプランクトン調査を行いその情報を発信することにより、生産者に対して現在の漁場の状態や今後の対応策についての情報を提供した。

### 方法

10月から3月までのノリ漁期中にノリ漁場栄養塩調査とプランクトン調査を実施した。栄養塩調査は伊勢湾のノリ漁場のうち、主漁場となる22測点の栄養塩とプランクトン発生状況を毎週水曜日に調査し、同日中に調査結果をFAXにより県内の関連漁協に送付した。分析項目は水温、塩分、溶存態無機窒素量、リン酸態リン量、プランクトン数である。

### 結果

#### 1. 今漁期の気象の特徴

津地方気象台の観測値によると、10月の平均気温は19.1℃、11月は12.9℃と高め、12月は8.8℃とかなり高めで推移した。1月は5.5℃と平常並みとなり、2月は4.3℃と低めで推移した。10月の積算降水量は87.5mm、11月は23.0mmと少なめで推移し、12月は80.5mmとかなり多めとなった。1月は34.5mm、2月は47.0mmと平常並みで推移した。10月の積算日照時間は161.1hと平常並み、11月は134.9h、12月は163.3hと少なめで推移し、1月は138.9hとかなり少なめ、2月は156.4hと平常並みで推移した。

#### 2. 今漁期の海況の特徴

白子地先の水温は10月は高めで推移し、11月中旬まで高めの傾向は続いた。11月中旬から2月初旬にかけて概ね平常並みで推移したものの、2月中旬から3月上旬にかけてかなり低めで推移した(図1)。比重は10月から12月にかけて概ね高めで推移したが、1月から2月中旬にかけて概ね平常並みで推移した。漁期を通して大きな出水もなく、比較的安定した状態で推移した(図2)。

栄養塩レベル(桑名地区を除いた伊勢湾のノリ漁場の

平均値)は10月初旬から中旬にかけて低い状態で推移したが、育苗期を含む10月下旬から11月中旬にかけて高い状態で推移した。本養殖期に入った11月下旬から再び低下し、12月下旬まで栄養塩レベルが低い状態で推移し

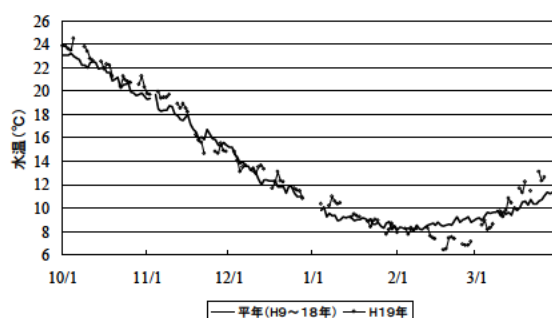


図1. 平成19年ノリ漁期の白子地先の海水温の推移

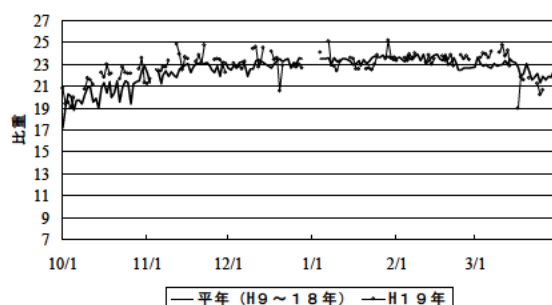


図2. 平成19年ノリ漁期の白子地先の海水比重の推移

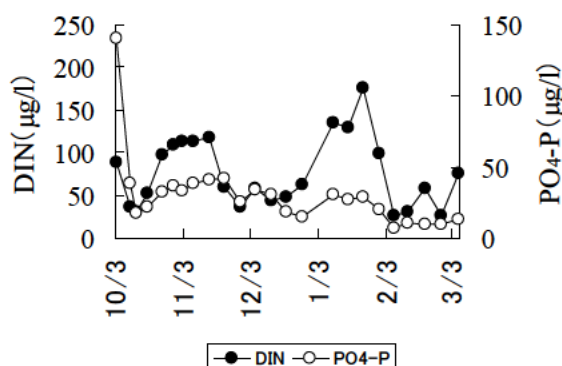


図3. 栄養塩量の推移(桑名地区を除く)

た。1月に入ると高い状態となった。その状態は1ヶ月間継続したが、2月に入ると再び栄養塩レベルが低い状

態で推移した（図3）。

プランクトンは10月上旬から中旬にかけてゴニオラックス・ポリグラマによる赤潮が発生した。10月下旬から11月中旬にかけてプランクトンの発生はほとんどみられなかったが、11月下旬から12月下旬にかけてスケルトネマ・コスタータムによる赤潮が発生した。2月に入ると複合した珪藻プランクトンが低密度でみられるようになり、その状態が継続した。

### 3. ノリ養殖経過

今漁期の採苗は順調に行われた。しかし10月上旬から中旬にかけて伊勢湾全域でゴニオラックス・ポリグラマによる赤潮が発生したため、育苗開始が1週間程度遅く10月中旬から始まった。このため、海水温が平年に比べて0.5～1.5℃高く推移したものの、ノリの生育には適温であった。また、10月中旬から11月上旬にかけての育苗期間中はプランクトンの発生もわずかで、ノリの生育に必要な窒素やリンといった栄養も豊富にあったことから、例年に比べて健全度がかなり高い種網の確保ができた。しかし、摘採が始まった12月にはスケルトネマ・コスタータムによる赤潮が発生し、河口漁場以外ではひどい色落ちのため生産を休止する漁場もあった。また、珪藻の付着が激しく製品の品質が低下する漁場も見られた。1月に入ると赤潮が解消され、河川からの栄養塩の供給により、栄養塩量が大幅に上昇し、伊勢湾全域でノリの色が良くなった。しかし、2月に入ると再び複合した珪藻プランクトンによる色落ちが始まった。また、プランクトンが解消した後も栄養塩量が回復しない状態が継続したため、色落ち状態は長期間にわたり継続した。今漁期は本養殖開始以降では比較的良好な海況であった時期が1月の一ヶ月間だけと非常に短かった。

### 4. 共販結果

三重県の年内生産を昨漁期と比較すると、4千572万枚と約17%増加した。しかし平均単価は822円と約34%下落した。このことから生産金額は3億7千601万円と約22%減少した。三重県では近年、年内生産が不調であったが、その中でも特に厳しい結果となった。

3月23日現在までの出荷枚数は全国では約82億7百万枚と対前年比で約5%減少した。単価の全国平均は906円で前年とほぼ同水準であった。一方三重県の生産状況は3月27日現在までの出荷枚数は2億6千195万枚と約14%減少した。平均単価は776円と約8%下落した。生産金額は20億3千211万円と約21%減少した。平成17年度と平成18年度の2年間生産不調が続いている中で出荷枚数が対前年比約14%と大幅に減少し、単価も約8%下落、生産金額では対前年比21%減少した。今漁期はプランクトンによる色落ちが激しかったため、河口漁場および外海漁場以外の鈴鹿地区、南勢地区、鳥羽地区の伊勢湾側の漁場で非常に厳しい結果であった。

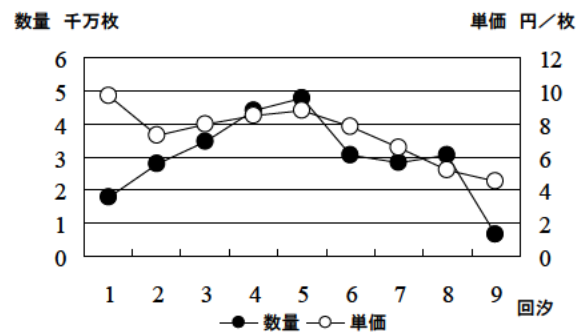


図4. 汐別生産枚数と単価の推移